2011年9月16日 建通新聞

総合資格

屋外施設含む「敷地全体の計画」がポイントに

2級建築士設計製図試験総評

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、9月11日に行われた2011年度2級建築士設計製図試験の総評を発表した。

本年度の2級建築士「設計製図試験」の課題は、「趣味（自転車室）のある専用住宅（木造2階建）」で、これまでの試験では、「建物の計画」そのものを中心とする内容だったが、年々「屋外施設」を含めた「敷地全体の計画」も要求されるようになってきている。

本年度の課題も、設計条件に示された建物と外部施設との関連が「設計条件」として強調されている。敷地に正しく建物を配置し、その上で「屋外テラス」や「ガーデニング用の庭」などの関係に加え「駐車スペース2台」をいかに適正に計画できるかが問われた。

さらに、課題の設計条件を実務的な視点で見ると、さらに設計実務を意識した課題で、受験生の基本的な設計力が確認できる良問だった。さまざまな課題を練習してきた受験生にとっては、学習した内容を総合し、解答できれば、十分に対応できた。

出題の特徴とポイントは、課題の敷地が「縦・横18㍍」という正方形の敷地に、道路に面して植栽などのスペース（40％以上）を要求、「趣味室の専用出入口と屋外テラスへの出入口の条件」、「花壇のあるガーデニング用の庭と家事室の関連」の二つが動線計画上のポイントとなっている。

ただし、趣味室に専用の出入口を設ける条件等は、課題発表時から想定できたが、屋外施設に関しては、ガーデニング用の庭の「4・5㍍のスペースと9平方㍍の花壇」について、読み取りに苦労する出題だった。また、駐輪スペースは「植栽で道路から直接見えないようにする」という要求もあった。要求図書では、1階平面図の「シャワー室の壁掛けシャワーヘッド」と立面図の「建築物の最高の高さ」が、初めて要求された。

本年度の2級建築士設計製図試験の合格のポイントは、課題文に記載されている「課題要求（施主要望）」を3次元の「建築計画」として提案できる「計画力」が、より具体的（実務的）に問われており、今後もこの傾向はさらに強くなることが想定される。そのためには「建築計画の常識を理解し、実際にクライアントに提示できるエスキス・作図表現の能力」が必要になると考えられる。